

農作物病害虫発生現況情報（9月） りんご編

1 斑点落葉病

(1) 9月後半の巡回調査のふじでの発生園地率は64.5%（平成70.3%）で平成並、発生程度中以上の園地率は9.7%（平成23.9%）で平成よりやや低かった（図1）。また、発病度は平成よりやや低かった（図2）。

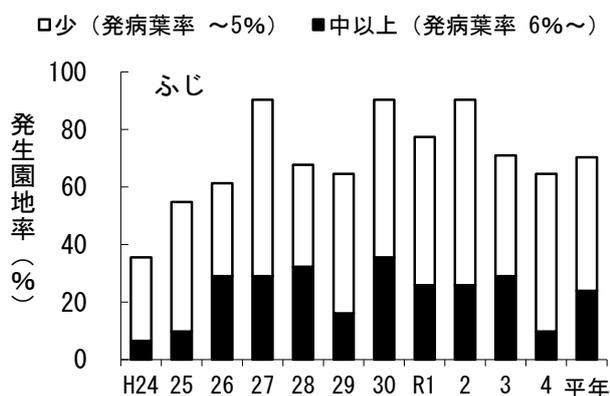


図1 斑点落葉病の発生園地率の推移 (ふじ、9月後半、徒長枝全葉)

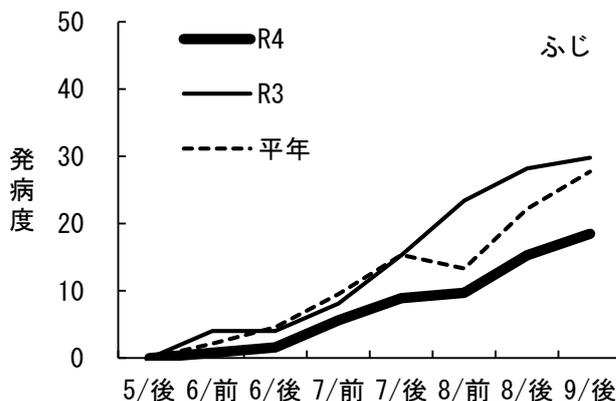


図2 斑点落葉病の時期別発生度の推移 (ふじ)
 ※「発病度」= (4A+3B+2C+D) × 100 / (調査園地数 × 4)、
 A: 発病葉率21%~、B: 11~20%、C: 6~10%、D: 1~5%の園地数

2 褐斑病

(1) 9月後半の巡回調査での発生園地率は51.6%（平成41.6%）、発生程度中以上の園地率は22.6%（平成12.6%）で、ともに平成よりやや高かった（図3）。

(2) 9月の発病度は平成よりやや高く推移した（図4）。

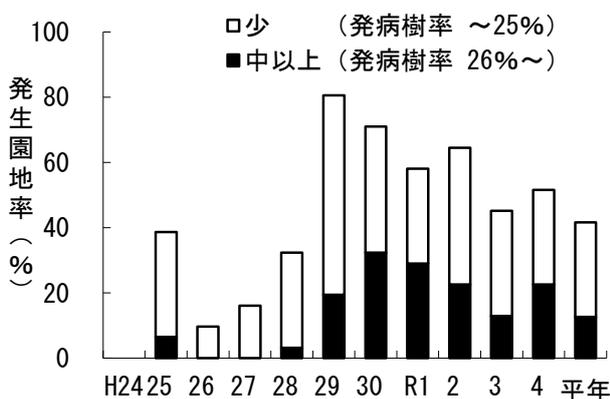


図3 褐斑病の発生園地率の推移 (9月後半)

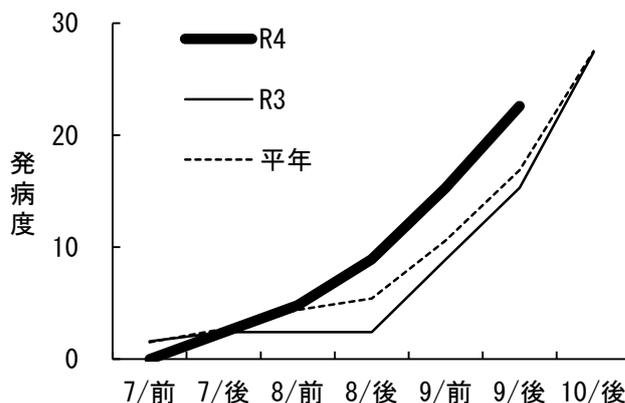


図4 褐斑病の時期別発生度の推移
 ※「発病度」= (4A+3B+2C+D) × 100 / (調査園地数 × 4)、
 A: 発病樹率76%~、B: 51~75%、C: 26~50%、D: 1~25%の園地数

3 黒星病

(1) 9月後半の巡回調査での発生園地率は、徒長枝葉は12.9%（平成7.7%）、果実は9.7%（平成5.2%）で、ともに平成よりやや高かった（図5）。

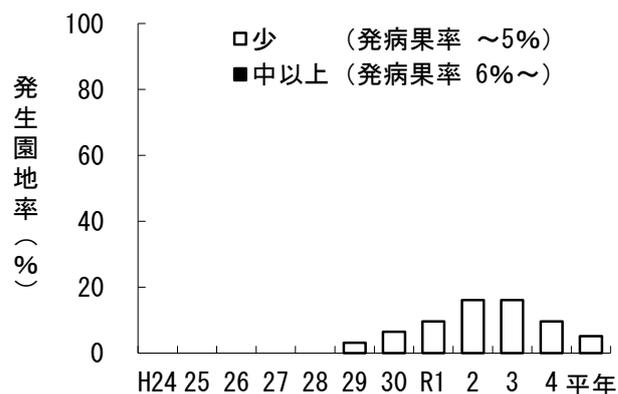
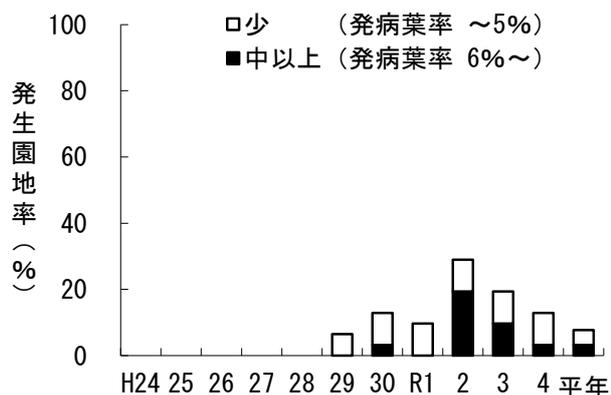


図5 黒星病の発生園地率の推移（9月後半、左：徒長枝葉、右：果実）

4 果実病害

- (1) 輪紋病：9月後半の巡回調査での発生園地率は16.1%（平年10.0%）で、平年より高かった（図6）。
- (2) 炭疽病：9月後半の巡回調査での発生園地率は6.5%（平年9.7%）で、平年並だった（図7）。
- (3) すず点病：9月後半の巡回調査での発生園地率は3.2%（平年4.5%）で、平年並だった（図8）。
- (4) すず斑病：9月後半の巡回調査での発生は、確認されなかった（平年0.3%、図9）。
- (5) 黒点病：9月後半の巡回調査での発生は、確認されなかった（平年8.4%、図10）。

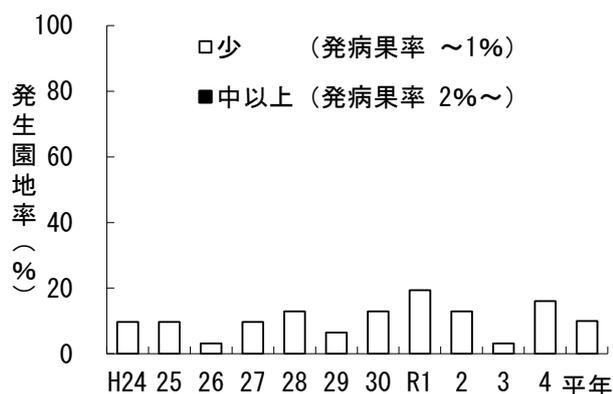


図6 輪紋病の発生園地率の推移（9月後半）

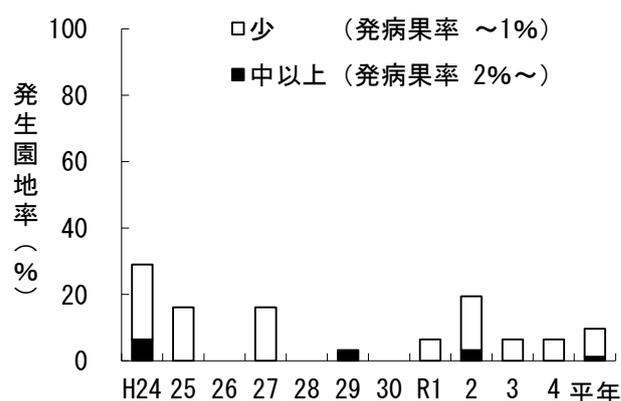


図7 炭疽病の発生園地率の推移（9月後半）

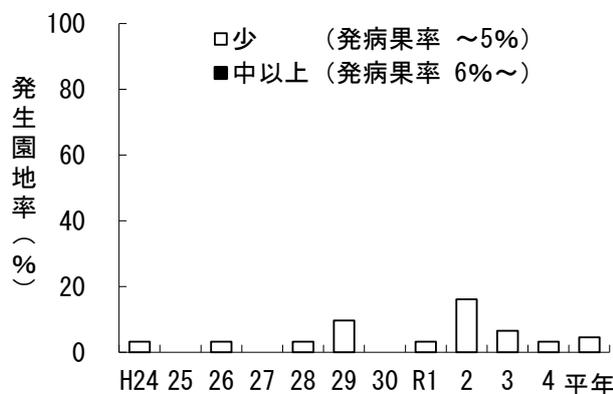


図8 すず点病の発生園地率の推移（9月後半）

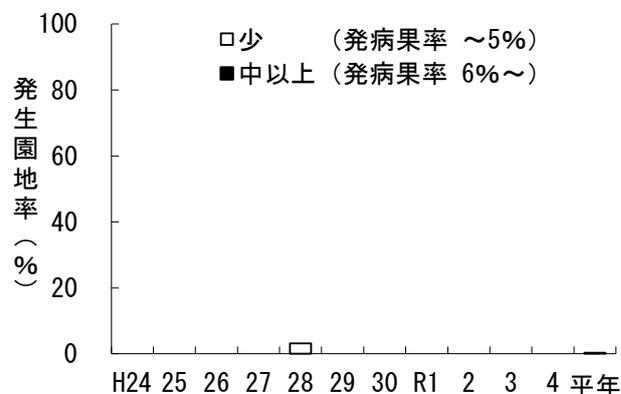


図9 すず斑病の発生園地率の推移（9月後半）

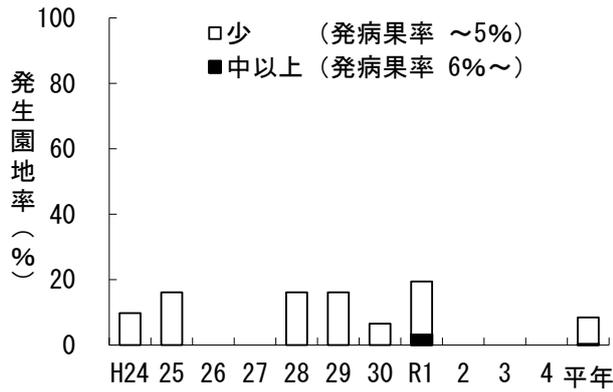


図10 黒点病の発生園地率の推移（9月後半）

5 ハダニ類

- (1) 9月後半の巡回調査での目通りの発生園地率は、ナミハダニは6.5%（平年17.4%）で平年より低く、リンゴハダニは発生が確認されなかった（平年6.1%、図11）。
- (2) 目通りの時期別発生度は、ナミハダニは6月後半から8月前半までは平年並に推移し、8月後半からは平年より低く推移している（図12）。また、リンゴハダニは6月後半から8月後半まで平年より高く推移し、9月後半から平年より低く推移している（図13）。

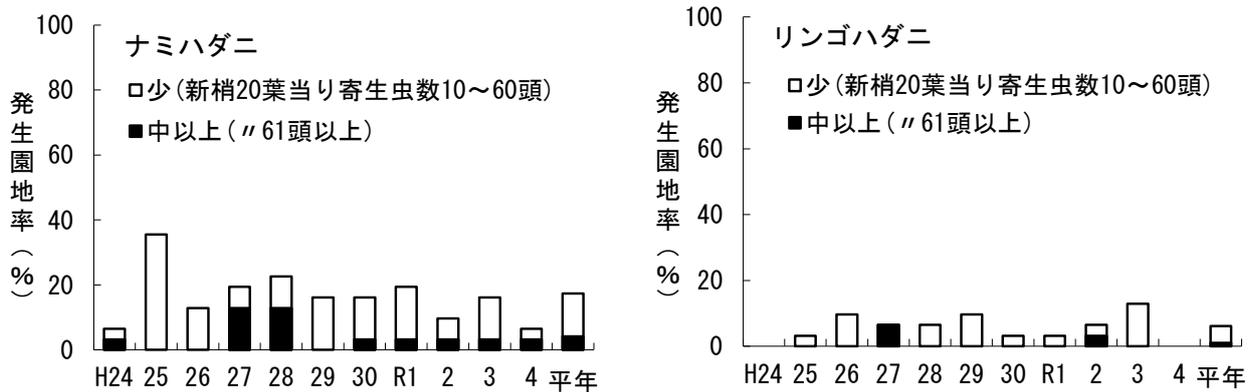


図11 ハダニ類の発生園地率の年次推移（9月後半、目通り、左：ナミハダニ、右：リンゴハダニ）
（10頭未満/新梢20葉（10樹）は発生無しの扱い）

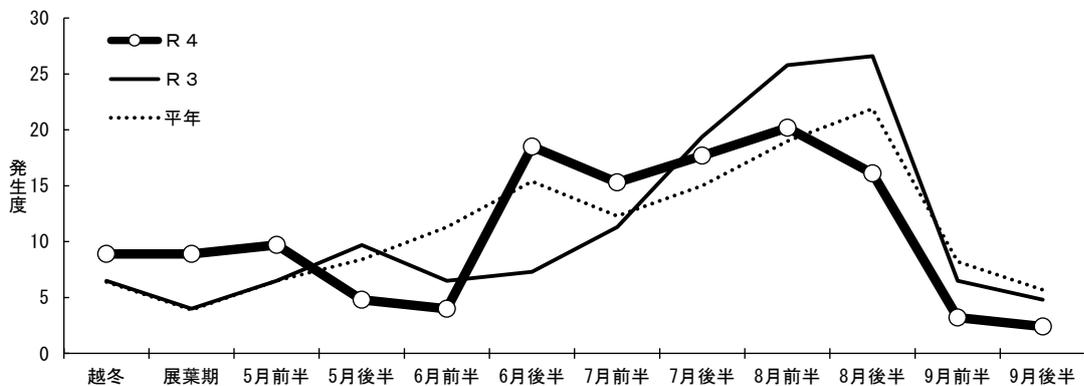


図12 ナミハダニの時期別発生度の推移（目通り）

※発生度：(4甚+3多+2中+少) ×100 / (調査圃場数×4)

(発生程度の評価基準は時期によって異なる)

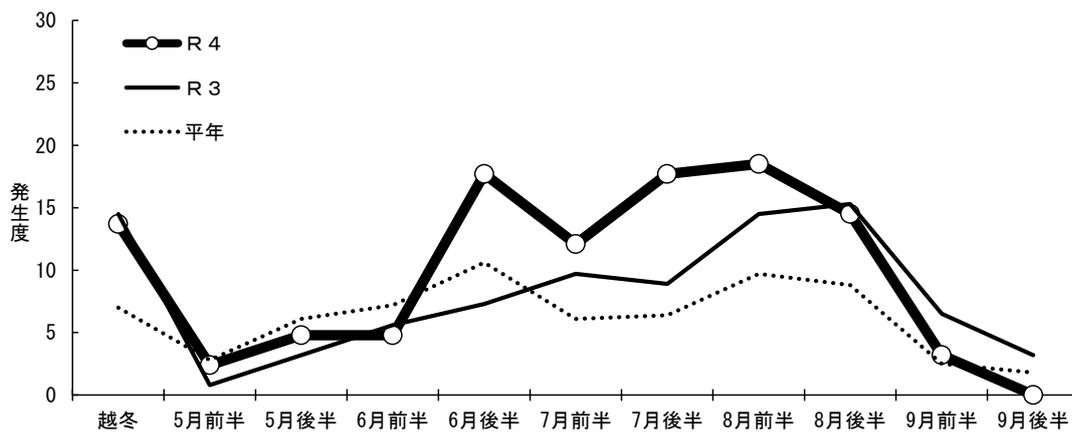


図13 リンゴハダニの時期別発生度の推移 (目通り)

※発生度：(4基+3多+2中+少) ×100/ (調査圃場数×4)

(発生程度の評価基準は時期によって異なる)

6 ギンモンハモグリガ

(1) 9月後半の巡回調査では、発生は確認されなかった (平年13.2%、図14)。

7 シンクイムシ類

(1) 9月後半の巡回調査での発生圃地率は3.2% (平年6.4%) で、平年よりやや低かった (図15)。

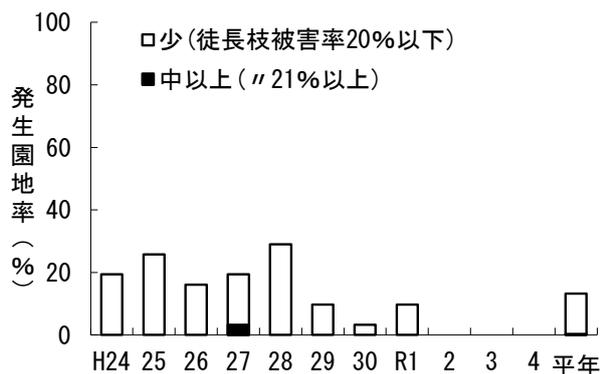


図14 ギンモンハモグリガの発生圃地率の年次推移 (9月後半)

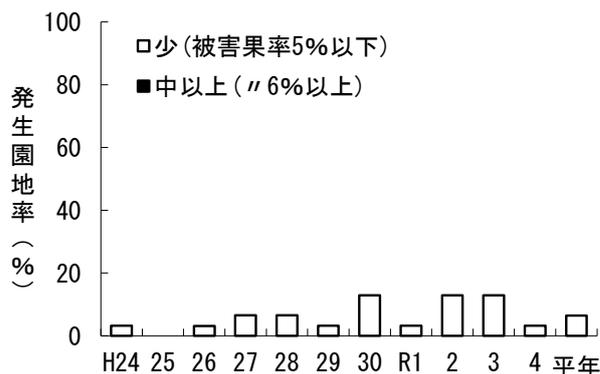


図15 シンクイムシ類による被害果発生圃地率の年次推移 (9月後半)

8 果樹カメムシ類

(1) 9月後半の巡回調査での被害果の発生圃地率は38.7% (平年15.5%) で、平年よりやや高かった (図16)。

(2) クサギカメムシの予察灯への誘殺数は、盛岡市川目では、8月第6半旬に、今年に入って最も多く誘殺され、北上市更木では、8月下旬以降、誘殺されなかった。年間誘殺頭数は、両園地ともに平年より少なかった (図17)。

(3) チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺数は、基準圃、盛岡市川目では、8月下旬以降、5頭未満の誘殺があったが、北上市更木では誘殺されなかった。年間誘殺頭数は、いずれの園地も平年より少なかった (図18)。

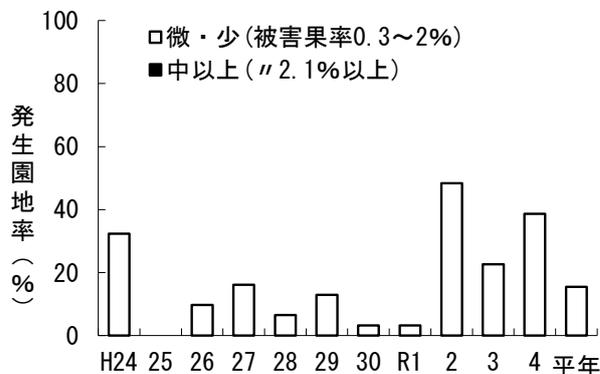


図16 果樹カメムシ類による被害果発生圃地率の年次推移 (9月後半)

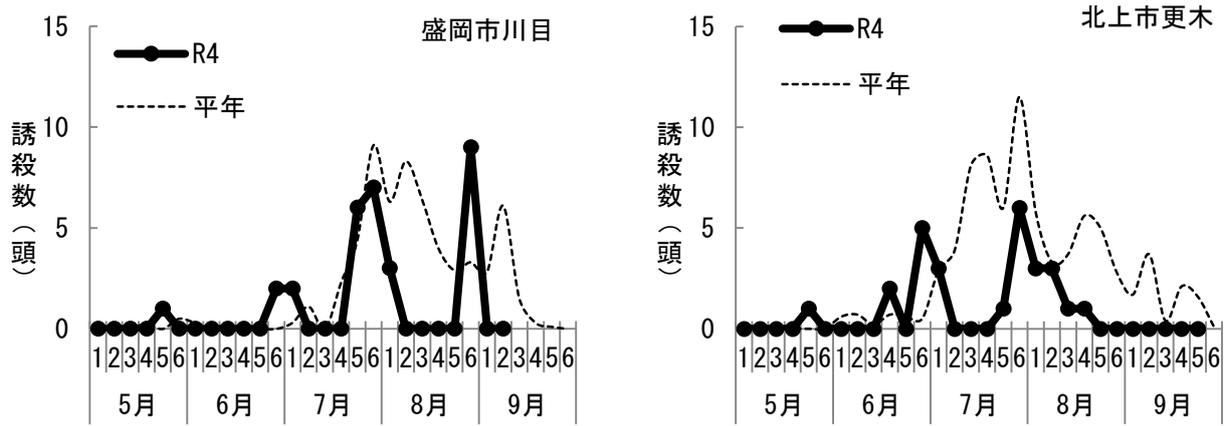


図17 クサギカメムシの予察灯への誘殺状況 (左：盛岡市川目、右：北上市更木)

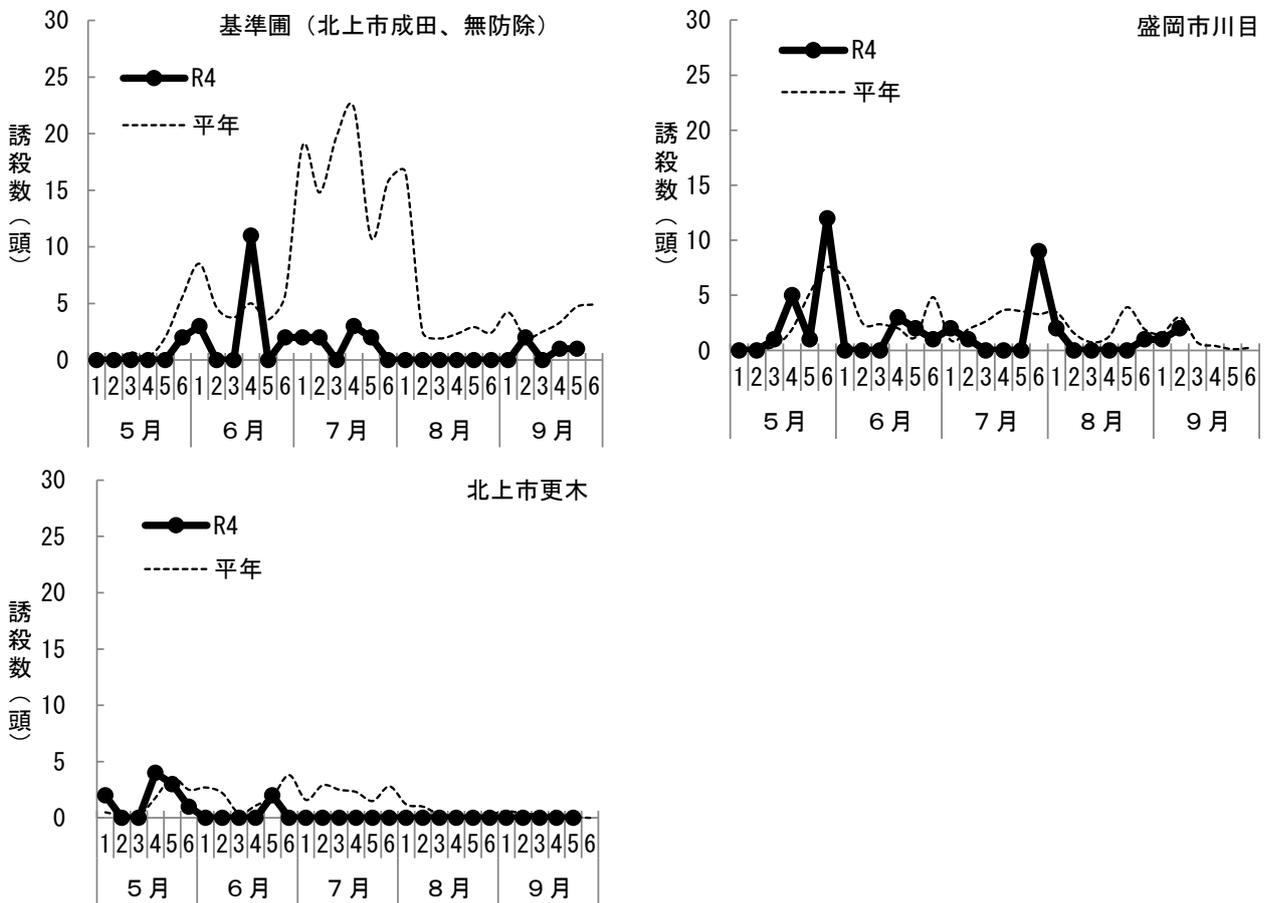


図18 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺状況 (左上：基準圃場 (北上市成田、無防除)、右上：盛岡市川目、左下：北上市更木)